

6月定例会

予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く21人の議員で構成、委員長は佐々木謙議員、副委員長は照井文雄議員）は、条例5件、予算2件、その他1件について付託を受けて2日間の審議を行いました。

今委員会では、特にも総合食育センター整備事業において活発な質疑がなされました。その結果、全8議案が原案のとおり可決されました。

地域ICT遠野型健康増進ネットワークについて

問 地域ICT遠野型健康増進ネットワーク事業の内容は。

答 平成20、21年度にICT（情報通信技術）を活用した地域連携遠隔支援モデル事業をもとに、市内各地区センターを活動拠点とする市内全域を網羅した健康づくりのネットワークを推進しようとするもの。宮守地区の3地域の場所は未定だ。この事業によって、ハード面では健康づくり関連器材の整備等を行い、ソフト面では定期的に地区センター等に集まって健康情報を計測し、看護師等のスタッフによる健康づくりの巡回指導や健康相談（採血も実施）等を実施する。このことにより、医療費の抑制を図りたい。

総合食育センターについて



問 今回、詳しい説明がないままに基本設計などが、平成20年7月の市政調査会において説明があったたきりである。残された課題、福祉施設への給食の提供や施設整備の建設運営などについて、検討して公表すると言っていたが、2年間で市民懇談会も含めてどのように整理されているのか。

答 平成20年7月以降の経過については、21年6月に福祉施設代表者との協議を行い、9月には二戸市と久慈の学校給食センターを視察。財源については、これまでは合併特例債を考えていたが、様々な検討の結果、少しでも有利な財源を確保するというところで、まちづくり交付金を利用することに決定。3月に申請し、5月に決定された。それにより、PFI方式から設計と工事は別になり、また、LLP方式についても見直し再検討していくことに。食育センターとしてのコンセプトや地産地消率ということでも農業関係者との話し合いも行われてきた。

問 給食センターの必要性は認識されていると思うし、今までの方式とは変わった形で進めていくということは理解したが、今まで検討されたものを議員全員協議会の中

で説明すべきではなかったか。その上で市民懇談会での意見要望を聞くのが順序ではなかったか。

答 確かに説明不十分だったかも知れない。今後は市民検討委員会を立ち上げ、8月から9月までには結論を出し、議員の方々には、逐次説明をしながら整備をしていく。

口蹄疫の予防対策について

問 宮崎県で発生している口蹄疫への本市の対策は。

答 対策は防疫連絡協議会で検討した中から、畜産農家に消石灰を配付し、車輛と人の出入りする場所に散布を徹底させている。更に粉末の消毒薬も配付して、両方で菌の侵入を防ぐ対策を考えている。

問 本市は畜産生産高の

注1 PFI方式とは…プライベート・ファイナンス・イニシアチブ（民間資本主導）の略
民間のノウハウによって無駄なコストが省かれ、質の高い公共サービスが提供できるとされている。

注2 LLP方式とは…リミテッド・ライアビリティ・パートナーシップの略
事業を目的とする組合契約を基礎に形成された企業組織体のこと。